



市岡小学校



市岡小学校は大正5(1916)年4月、現在の場所に誕生しました。当時は22学級、1064人の児童が在籍し、着物に帯、わらぞうり姿で通学していました。その後の90年以上にわたる歴史の中で、戦災や台風、水害などのさまざまな試練を受けて今にいたっています。

港区在住の卒業生で、戦後間もない昭和22(1947)年に入学された多田久一さんに思い出をうかがいました。

「入学した頃はまだ戦災の傷跡が大きく残り、校舎の窓も割れたままでした。それでも学校に通うのがうれしかったです。周辺には学校などの数少ない鉄筋造の建物がいくつか残っているほかは畑とバラック小屋ばかりで、ナイターがはじまった大阪球場など遠くま



多田久一さん

で見渡すことができました。一番記憶に残っているのは、骨格だけの講堂の残骸の中で鬼ごっこをして遊んで、担任の先生からひどく叱られたこ

とです。学校では、参観日や運動会、学芸会などの年中行事がありましたが、学芸会は教室をつなげて会場と舞台をつくり、劇や歌を披露しました。娯楽が少ない時代のこと、会場は家族や近所の人たちでいっぱいでした。」



1950年頃の学芸会「えのきの和尚さん」(多田さん提供)

現在の市岡小学校では、437名のこどもたちが学んでおり、校舎の屋上からは、海遊館近くの観覧車やオーク200、尻無川の大水門を見渡すことができます。2年前に建てられた校舎には、新システムの給食調理室やパソコン教室、エレベーターなども設置され、バリアフリーの人にやさしい学校として生まれ変わっています。また、登下校の見守りや、栽培活動・昔遊びのゲストティーチャーなどで地域の方に支えられています。時代が変わっても、市岡小学校は、のびやかにこどもたちを育てるとともに、地域の中心として愛され続けています。



昔遊び(市岡小学校提供)